

通級による指導 (対象者数)			1						1		1	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	8	1	2		1	2		2	18	

指定校名：朝来市立和田山中学校											
	第1学年				第2学年				第3学年		
	生徒数		学級数		生徒数		学級数		生徒数		学級数
通常の学級	149		4		136		4		153		4
特別支援学級	5				4				4		
通級による指導 (対象者数)	3				6				4		
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	24	1	5	1	2	3	1	4	43

4. 指定校における取組概要

<p>① 目的・目標</p> <p>ア 目的 通常の学級で学ぶ発達障害の可能性のある児童生徒を中心として、特別支援教育の視点をいかし、すべての児童生徒にとってわかりやすい授業や指導方法を実践研究する。</p> <p>イ 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定校における児童生徒の実態把握、教員等の意識調査により低位項目を明確にし、それに対するアプローチを行い、改善を図る。 ・指定校において授業研究を行い、授業のユニバーサルデザイン化に有効な指導方法や授業づくりの仕組みを明らかにする。 ・「授業のユニバーサルデザイン化ハンドブック」を作成し、県内に発信し、すべての児童生徒にとってわかりやすい授業のあり方を提案する。 <p>② 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化 指定校3校の児童生徒の実態把握</p> <p>ア 和田山中学校 「授業アンケート」(児童・生徒)</p> <p>イ 大蔵小学校 「学級の雰囲気チェック票」(児童・生徒)「授業のユニバーサルデザイン化モデル研究事業におけるチェックリスト」(教員用・管理職用)</p> <p>ウ 糸井小学校 新体力テストの結果、保健室来室状況(外科)</p> <p>③ 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容</p> <p>ア 授業(一斉指導)における指導方法の工夫内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝来市授業のUD化の視点と手立てによる授業 (導入・展開の工夫、指示・発問の工夫、板書の工夫、机間指導の工夫等) <p>イ 放課後補充指導等の個別の指導における指導方法の工夫内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後ステップアップタイム(補充学習を個別に実施) <p>④ 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容の妥当性の評価手法</p> <p>ア 数値化できる評価(量的な評価)</p> <p>年度当初と同様の様式による評価(変化を比較、取組の分析)</p>
--

イ エピソード等による評価（質的な評価）

「授業評価シート」を活用したエピソード等による客観的な評価

⑤ 授業のユニバーサル化アドバイザー 3人

- ・児童生徒の実態把握・チェックリスト等の集約・データ化と授業分析
- ・担任、教科担任と協働した支援の手立ての整理と授業づくりにかかる助言

5. 主な成果

(1) 実態把握のあり方について

アンケートを活用した、客観的な実態把握、「個に対する支援シート」による、複数教員で多角的に見立て、学年団等で児童生徒のニーズの共通理解、「授業評価シート」の活用で、評価改善等が明らかになった。ある小学校では、「新体力テスト」を実施し、児童の体づくりの課題を客観的に把握した。

(2) 一斉指導における指導方法の工夫について

「朝来市授業UD化の視点と手立て」による授業づくりを行うとともに、「個に対する支援シート」を活用して、単元ごとに学級の児童生徒全員の実態と予想される困難さ・原因と具体的な支援・手立てを明らかにして、指導・支援を行った。体づくりに取り組んだ学校では、運動動作のポイントを確認できるイラスト等を掲示したり、帯時間にサーキットトレーニングを行行なったりすることで、児童の体力向上が図られた。

(3) PDCAサイクルによる支援の質の向上について

「個に対する支援シート」「朝来市授業UD化の視点と手立て」「授業評価シート」を活用し、PDCAサイクルによる授業改善が効率的に促進された。

(4) ユニバーサルな授業づくりにかかる小中連携について

ユニバーサルな授業づくりにかかる取組が小～中学校へ引き継がれると、生徒は安心して学校生活を行うことができる。校区の実態把握を行い、互いの児童生徒の実態に応じた共通した取組を設定していく小中連携の取組は有効である。

6. 今後の課題と対応

(1) 実態把握のあり方について

特別支援教育の視点をいかした授業づくりでは、実態把握がいかに的確にできるかがポイントである。具体的なシートの開発はなされたが、教員自身が児童生徒の力を見立てることに意識が向きにくい場合も考えられる。活用のための研修も合わせて実施し、更に普及啓発を図る必要がある。

(2) 一斉指導における指導方法の工夫について

「朝来市授業UD化の視点と手立て」の開発によって、授業づくりの視点・手立ては示されたが、ここで示された視点・手立ては、これだけを行えばわかりやすい授業が行えるというものでない。個々の児童生徒の実態を十分に把握し、個別のニーズにいかにか寄り添う授業づくりができるかを、一人一人の教員が自らの取組を最適化させて対応するよう、視点と手立ての趣旨と活用のあり方を研修等で普及啓発する必要がある。

(3) PDCAサイクルによる支援の質の向上について

「個に対する支援シート」「朝来市授業UD化の視点と手立て」「授業評価シート」は、担任が担当する教科等で活用することが可能であるが、学年や学校全体で組織的に行われることで、より効果的な取組となる。教員間の学び合いや支え合いの取組は指導力の向上に寄与するものであるため、市町教育委員会等からの普及啓発をすすめる。

7. 問い合わせ先

組織名：兵庫県教育委員会

- (1) 担当部署 特別支援教育課
- (2) 所在地 兵庫県神戸市中央区下山手 5-10-1
- (3) 電話番号 (078) 362-3774
- (4) FAX 番号 (078) 362-4286
- (5) メールアドレス tokubetsushien@pref.hyogo.lg.jp